

志賀原発直下 見逃された「活断層」

志賀原発を問う

変動地形学 東洋大教授 渡辺満久氏が氷見で講演

とき 10月9日(火)

午後7時(6時30分開場)

ところ 氷見市いきいき元気館

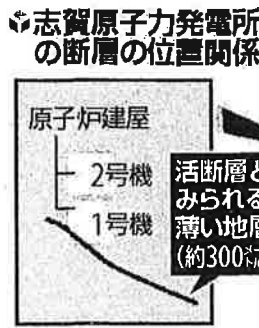
3階大ホール(氷見市中央町)

講演 『志賀原子力発電所周辺の活断層』

渡辺満久・東洋大教授

資料代 500円いただきます。

5月23日、千葉で開催された学会で渡辺教授は志賀原発の北9kmにある富山川南岸断層が原発の前海面域まで伸びている可能性がある、と発表しました。その1ヶ月18日、原子力安全・保安院は、志賀原発の直下を走る断層が活断層であるとの専門家委員の意見を受けて、北電に再調査を命じました。私たちが23年前から訴えてきた「立地不適格」の問題がいよいよ焦点を絞らざるを得ませんでした。



もう再稼働などは論外です。保安院と原子力安全委員会が行なってきた国の安全審査そのものが問われています。選手と審判が一体になって進められたに等しい国の審査の実体と責任を明らかにしない限り、「安全上問題はない。廃炉の可能性は全くない」と言う北電に調査をやらせてどうなるのでしょうか。しかもこの調査と審査の経過を全て公表し、志賀原発の立地調査をやり直すべきです。

この時に当たり、最新の地盤研究＝変動地形学の先端的な知見を示してこられた渡辺先生をお招きして、講演頂くことになりました。断層に囲まれ、断層の上に住つ志賀原発―その立地の危険性を私たち氷見市民・県民が知るようになりたいと考えています。

ぜひぜひ、お誘い合わせにいらして下さい。

渡辺満久(わたなべみつひさ) 先生の紹介

東洋大学社会学部教授・理学博士。新潟県生まれ。東大理学系系研究科地理学専攻博士課程修了。専門は地形学(変動地形学)で、日本活断層学会などに所属し、活断層研究では先端的な知見を示してこられた。原発に関しては反対の立場ではないが、日本の原子力施設周辺では活断層が正しく評価されていないのが現状を指摘。

「わたしのこ.11」(毎日新聞社)、「新編 日本の活断層」(東大出版会)、「都市圏活断層図」(国土地理院)、「活断層地形判読―学生と学ぶための活断層の認識」(国土院)などで著書に共同執筆。

主催

渡辺満久教授の講演を聞く会

(事務局・氷見市栄町0-57 TEL74-0517 菅沢裕明)

後援

生命のネットワーク、県平和センター、住み良い氷見市・富山県を創るみんなの会、社民党氷見支部